

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01

From the President / Masaru MAENO

2009年次第2回拡大理事会報告(6/13)／舘崎麻衣子 02

Report of the 2nd Meeting of the Executive Board, 13th June 2009 / Maiko TATEZAKI

ISC 建築遺産の構造解析と修復に関する国際学術委員会モスタル会議報告／花里利一 06

Report of the meeting of ISC on Analysis and Restoration of Structural Architectural Heritage (ISCARSAH) in Mostar, Bosnia and Herzegovina / Toshikazu HANAZATO

2009年8月岩面画国際学術委員会活動報告

／五十嵐ジャンヌ 07

Report on the activity of ISC on Rock Art (ICOMOS-CAR) in August, 2009 / Jannu IGARASHI

最近のISC考古遺産管理委員会のうごき／小野 昭 07

Recent trends in ISC on Archaeological Heritage Management (ICAHM) / Akira ONO

ISC文化的景観国際委員会報告／杉尾伸太郎 08

Report of ISC for Cultural Landscapes (ICOMOS-IFLA) / Shintaro SUGIO

第4小委員会(世界遺産に関する小委員会)報告

／稲葉信子、山内奈美子 09

Report of Subcommittee of Japan ICOMOS on World Heritage / Nobuko INABA, Namiko YAMAUCHI

第6小委員会(鞆の浦の問題に関する小委員会)報告

／益田兼房 11

-Report of Subcommittee of Japan ICOMOS on Tomo-no-Ura / Kanefusa MASUDA

お知らせ 11

Announcements

事務局日誌 14

Diary



イラスト／前野まさる (以下すべて)

7期 11号



2009.9.17

はじめに
前野まさる



2004年10月に愛媛県で開催されたCIAVの会議で、福山市が計画している鞆の浦の埋立て架橋について「歴史的港湾鞆の浦保存緊急提案」して以来、2005年のXian総会決議、2006年のICOMOSの法律財政行政国際学術委員会勧告、2008年のケバック総会決議、さらにはG.Araoz ICOMOS委員長の鞆の浦歴史的港湾の保存要望など、これほどICOMOSが歴史的遺産の保存要望をしたことはありませんでした。地元住民も3割の方々が埋立て架橋に反対し、裁判をおこし本年2月に結審、8ヶ月のちの10月1日判決が出ることになったようです。どのような判決が出るか分かりませんが、地元住民の働きは勿論、ICOMOSのこれまでの働きを無駄にしないようにしたいと思います。

近年、日本で開催するICOMOSの会議も増えてまいりました。8月にIFLA(文化的景観)会議が東京で開催され、10月に京都でCIPA(遺産文獻、計測)の委員会があり、つづいて10月から11月にかけて三重県の熊野と伊勢でCHIC(文化の道)の会議が企画されています。これは、CHICが会議を企画していたところ、このことが三重県の耳に入り、それでは「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録5周年記念事業とドッキングしようとなったものです。

こうした活動をするにも資金がかかり、任意団体では社会的信頼性が得られず、資金が中々集まりません。そこで、法人化についてここ数年事務局で研究を続けていましたが、法人の新定款とICOMOS側の規約の刷り合わせや、移行手続きなどややこしい問題が山積みで時間がかかってしまいました。今後、日本イコモス国内委員会の役割は益々重くなっていくものと思われます。先日、京都の立命館大学の歴史都市防災センターが「地震帯における世界文化遺産の持続可能な保護」をテーマとして開催した国際専門家会議では、文化遺産をめぐる自然災害、人為的災害について論議され、ここでも日本の役割の大きさを感じました。今後とも皆様方のお力添えをお願い致します。

2009年次第2回拡大理事会報告

2009年次第2回拡大理事会が去る2009年6月13日午後1時から午後3時30分まで日本イコモス事務局（東京都千代田区一ツ橋 岩波書店一ツ橋ビル会議室）で開催された。出席者は、委員長：前野まさる、副委員長：西村幸夫、事務局長：矢野和之、理事：小野昭、黒田乃生、益田兼房、渡邊保弘、本部執行委員：岡田保良、小委員会主査：稲葉信子、窪寺茂、ISC委員：大野渉、顧問：伊藤延男、事務局：舘崎麻衣子、以上13名が出席した。拡大理事会で討議された審議事項、協議事項、報告事項は以下の通りである。

審議事項

1. 入退会者の承認

以下の入会者が、審議の結果承認された。

1) 入会者

個人会員

氏名	所属	専門分野	推薦者
河西 裕 (かさい ひろし)	特定非営利活動法人 文化遺産保存のための 映像記録協会	有形・無形文化遺産 の映像制作、 日本演劇史	矢野和之・赤澤 泰
恵谷 浩子 (えだに ひろこ)	独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 文化遺産部	景観・造園学	清水重敏・平澤 毅
島田 悠 (しまだ ゆう)	小説家・ 旅行ライター	イスラーム建築	岡田保良・矢野和之
横山 浩明 (よこやま ひろあき)	磯池組技術研究所 前所長 (平成21年3月末 退職)	建築振動学	矢野和之・赤澤 泰
村田 健一 (むらた けんいち)	文化庁文化財部参事官 (建造物担当) 修理企画部門 主任文化財調査官 (併)文化財保護調整官	日本建築史、 文化財保存	矢野和之・前野まさる

2) 退会者 個人会員

氏名	専門分野	退会理由
大井 邦明 (おおい くにあき)		ご逝去 (2009年1月23日)

日本イコモス国内委員会 会員数 (今回の入退会者を含む)
個人 357 + 5 - 1 = 361名 維持会員 15 + 0 社 = 15社

協議事項

1. 2009年度第3回拡大理事会の開催日程・場所案 (矢野和之)

2009年度第3回拡大理事会の開催日程・場所について矢野事務局長から提案の説明がなされた。協議の結果、開催日程を9月19日(土)に変更し、場所は奈良文化財研究所で行なう方向で調整することに決定した。あわせて、平常官跡の整備について国土交通省の担当者の話を聞く(窪寺主査)、明日香村、堺市など暫定リストに入っている地域を見学する(矢野事務局長)などの提案があった。

2. 主催・共催・後援について (矢野和之)

以下の研究会の主催とスタディツアーの後援について説明があり、協議の結果了承された。

1) 次回 イコモス国内委員会主催研究会について

「日本建築は特異なのか」—東アジアの宮殿・寺院・住宅—(国立歴史民俗博物館)に関連して研究会を開くことを予定している。彩色小委員会(第10小委員会)の企画とし、昨年中国北京で開かれた彩画の国際シンポジウムの報告とそこで確認されたメモランダム(セビリアの世界遺産委員会に提出予定となっている模様)について、加えて今後の日中韓の交流についてなどの他、窪寺主査による「(仮題)日中韓の彩色技法の違いとその意味するもの」というようなテーマにしたいと考えている。

2) 特定非営利活動法人 文化財保存支援機構「中国敦煌スタディツアー」後援依頼
事業名：「中国敦煌スタディツアー」



日 程：平成 21 年 10 月 6 日(火)～12 日(月)

目 的：中国の世界遺産・敦煌莫高窟ならびに周辺の文化遺産を、敦煌研究院の全面的な協力のもと、専門家のレクチャーを受けつつ見学し、現地の専門家との意見交換を行なう。これにより、文家財保存修復への知見を広めると共に国際協力への理解促進を図る。

3. 国際学術委員会 (ISC) 国内連絡会の設置について (前野まさる)

近年、ISC の委員会数・委員数が増加し、各々の活動が活性化していることを受けて、ISC 間の情報共有を目的とした国内連絡会の設置について提案があった。併せて、ISC の登録メンバーについて、確認、協議を行なった。“Voting member”は“Board Member”、“Associate member”は“Expert Member”と表記する旨岡田執行委員から指摘があった。ただし、委員会によっては旧呼称のところもある旨が併せて報告された。

未決定の部分については前野会長、矢野事務局長が打診や推薦者の要請を依頼することになった。

4. 日本イコモス国内委員会の会員資格・種別の改訂について (杉尾伸太郎 代・大野渉)

協議の結果、本件は継続審議とし、国内委員会の法人化に係る規約改正に伴って決定することとされた。ICOMOS からカードが発行されない準会員などの制度についてはアメリカ、オーストラリアなど他国の事例もあることから、今後積極的に検討することが了承された。

また、団体会員の形態については本部に問い合わせることになり、今後は暫定リスト入りした自治体や、既に世界遺産に登録された地域の団体などの加入も念頭に置きながら進めることになった。

5. ICOMOS カード 会員特典について (矢野和之)

国内某文化遺産にて、海外からの ICOMOS メンバーが ICOMOS カードによる特典(入場料免除)を求めたが認められなかったため、国内の博物館や世界遺産登録資産などで ICOMOS カードが使用できるよう

委員会名	略称	Board Member	Expert Member
Analysis and Restoration of Structural Architectural Heritage	ISCARSAH	花里 利一	坂本 功 西澤 英和
Archaeological Heritage Management	ICAHM	小野 昭	岩崎 好規
Cultural Landscape	IFLA	杉尾伸太郎	岸本 雅敏
Cultural Routes	CIIC	杉尾 邦江	本中 真 石川 幹子
Cultural Tourism	ICTC	宗田 好史	大野 渉
Earthen Architectural Heritage	ISCEAH	岡田 保良	石井 昭 山内 奈美子
Fortification and Military Heritage	IcoFort		渡辺 邦夫
Historic Cities and Villages	CIVVII	福川 裕一	上野 邦一
Intangible Cultural Heritage	ICICH		稲葉 信子 秋枝 ユミ イザベル
Interpretation and Presentation	ICIP	門林 理恵子	
Legislation, Administration and Financial affairs	ICLAFI	-	-
Polar Heritage	IPHC	-	-
Recording and Documentation	CIPA	高瀬 裕	山田 修
Risk Preparedness	ICORP	益田 兼房	大久保 伸之
Shared Built Heritage	Shared Built Heritage	布野 修司 (案)	村松 伸 (案)
Stone	Stone	西浦 忠輝	石崎 武志
Theory of Conservation	ISCTC	秋枝 ユミ イザベル	西村 幸夫
Training	CIF	稲葉 信子	福島 綾子
Underwater Cultural Heritage	IPHCH	荒木 伸介	池田 栄史
Vernacular Architecture	CIAV	前野まさる	大野 敏
Wood	ICC	渡邊 保弘	土本 俊和
Legal Issues (CIPA に変更)		河野 俊行	(河野氏より適任者を推薦)
Rock Art		小川 勝	五十嵐ジャンヌ
20th Century Cultural Heritage	ISC20C	鈴木 博之	山名 義之

にという要望があった。実際に、ヨーロッパではICOMOSカードによって特典が受けられるところも多い。

ICOMOSカードの使用を可能にするためには各国の国内委員会が該当機関に交渉することになっている(要請状は本部が出してもらえらるものと考えられる)。

ICOMOSカードが使用不可能であることは、海外からのICOMOSメンバーに対して日本の文化施策に対する印象を悪くし兼ねないこともあり、早急に解決していく必要がある。

対象候補となっている「国立の博物館・美術館、公立の博物館・美術館」については、博物館協会を通して問い合わせを行なう。「世界遺産登録資産」についてはできるかぎり協力を要請することで決定した。「遺跡整備後有料となっている遺跡公園や遺跡博物館」については全国史跡整備連絡協議会を通じて協力を要請することとなった。

6. 公益法人化について (矢野和之)

新しい公益法人法に基づく公益法人化について説明があった。協議の結果、公益財団(社団)と一般財団(社団)法人のうち、一般財団(社団)法人からスタートする方向で進めることで合意が得られた。

7. 次期理事の選出について (前野まさる)

任期2010～2012年の委員長、理事、事務局長の選出方法の検討について議題が提示された。前回までは挙手で行なっていたが、法人化にむけて規約を作成する必要があることや、評議員と理事を分ける必要があること(岡田執行委員)などの指摘があった。

矢野事務局長がICOMOS本部の規約と法人のモデル規約を整合させた「たたき台」を渡辺理事および西浦理事と協力して作成し、西村副委員長に相談しながら進めることで了承された。

8. アジア太平洋地域会議の日本開催について (前野まさる)

岡田執行委員からアジア太平洋地域会議の日本開催

については特に進捗していない旨報告があった。40周年のプレ会議として位置づけてはどうか(稲葉主査)、暫定リストの地域で開催してはどうか(西村副委員長)などの提案があった。今後も引き続き検討していくこととなった。

9. 広島文理科大学校舎保存の件について (前野まさる)

元広島文理科大学本館(旧広島大学理学部1号館)の保存を考える会から上記建築の対応について相談があった。広島文理科大学は1931年建設され、1949年広島大学1号館となり、2004年の広島大学移転に伴って、市が取得し「知の拠点再生プロジェクト」用地として取得を計画していた。しかし、再々の延期の末、「コンクリートの劣化、耐震性能の低下」を理由に取り壊しが決定され、市民は「自然史博物館」活用を申し入れている。

広島市内に残された数少ない原爆遺跡群を被爆の惨状を伝える人類共有の文化遺産として広島市が本腰を入れて保存し、市のランドマーク的な性格を持った施設として活用していくことが広島市として最もふさわしい施設であるものとする。こうした原爆遺跡群を保存することによって「広島平和記念都市建設法」の趣旨が生き返ることになる。

日本ICOMOSの皆様のお力添えを頂きたい。

報告事項

1. 国立西洋美術館の世界遺産登録について (前野まさる)

国立西洋美術館の世界遺産登録について、6月9日の台東区世界遺産登録推進活動報告会で山名善之氏より、「記載延期」と勧告内容が伝えられた旨、前野会



長から報告があった。

ル・コルビュジェの設計した建築を世界遺産にする動きは2001年頃からフランス政府よりル・コルビュジェの資産のある関係国をもって始められる。当初、ル・コルビュジェが計画したインドのチャンディガールの都市計画も含めて推薦書類を検討していたが、インドの文化財は築後100年以上との条件などがあり、推薦書類提出直前になり辞退。結果6カ国22資産で推薦した。

このように近代建築の複数資産と6カ国という複数国にまたがる世界遺産推薦は初めてであったが、モダニズム建築の世界の中心人物として評価は高かった。ル・コルビュジェが提案していた近代建築の理念、極東にまでその影響を日本の国立西洋美術館に現したことは評価された。向かいに建つ東京文化会館はル・コルビュジェの建築理念の日本への受容の事例として評価され、また、国立西洋美術館の建つ上野公園の文化的環境なども評価された。

このように国立西洋美術館は評価されたのだが、しかし、「ル・コルビュジェの建築と都市計画」については、世界遺産一覧表に記載される資産が有すべき「顕著な普遍的価値」の証明等との関係で指摘があり「記載延期」との勧告がなされた(6月9日台東区世界遺産登録推進活動報告会より)。

2. 小委員会報告

1) 第5小委員会：ブルガリアプロヴディフ視察について(矢野和之)

5月17日から22日にかけて石井主査、麓委員、矢野委員がブルガリアを訪問し、現地の竣工状況の視察とブルガリアイコモス・スタネーバ委員長と報告書の刊行及び共同プロジェクトの収支について協議をおこなった旨、報告された。

2) 第6小委員会：鞆ノ浦問題について(益田兼房)

現在判決待ちの状態である旨、報告があった。現在の国土交通大臣、環境大臣に要望書をあげることを検

討してはどうかという意見があった。

3. 世界遺産国際交流シンポジウム開催について(杉尾邦江 代・矢野和之)

仮スケジュールおよび予算獲得の進捗状況について説明があった。参加者についてはこれから依頼、調整を行なう。

尾鷲会議 熊野古道国際交流シンポジウム

伊勢 世界遺産国際交流シンポジウム伊勢2009

詳細は本誌P.11「お知らせ」を参照されたい

4. 2009年CIAV年次総会(ルーマニア)報告(前野まさる)

ISC CIAV2009年次総会(ルーマニア)報告が前野委員長よりあった。

詳細はINFORMATION誌7-10 P.6を参照されたい。

5. 後援イベント開催について(矢野和之) 【日本イコモス国内委員会特別協力】

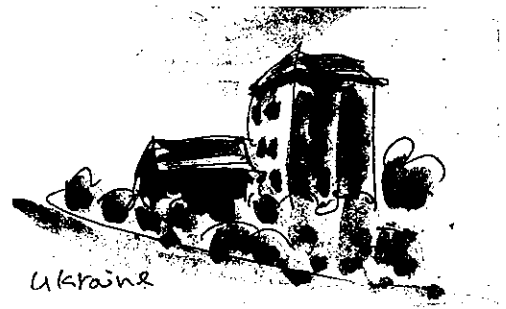
企画名：日韓交流イベント「チャン・グンソク in 熊野古道」

主催：(財)民族芸術交流財団

日時・場所：2009年5月26日(火) 東京・JCBホール
5月29日(金) 大阪・グランキューブ大阪メインホール

5/26のイベントでは、杉尾邦江理事より、日本イコモス国内委員会を代表して感謝状が贈呈された。

なお、5/29大阪での公演は、新型インフルエンザの影響により、開催が中止された。



ISC 建築遺産の構造解析と修復に関する国際学術委員会モスタル会議報告

花里利一

建築遺産の構造解析と修復に関する国際学術委員会 (ISCARSAH) がボスニア・ヘルツェゴビナの古都モスタルで7月11日に開催され、合わせて、ISCARSAH主催の石造建造物の耐震評価に関する国際シンポジウムが翌日7月12日に開催された。13日はシンポジウム参加者による視察ツアーで、モスタル周辺の歴史的建造物を見学した。学術委員会では、まず、委員の資格について議論し、新たに委員に応募した専門家のメンバーシップをひとりひとり審議して決定した。さらに、今後の活動として、ISCARSAHによる建築遺産の構造解析と修復に関する国際ガイドラインを新たに作り直すことを決め、評価 (Assessment)、解析 (Modeling)、補強 (Intervention) の3ワーキング・グループで活動することとした (花里は解析グループで活動することになった)。

国際シンポジウムでは、ボスニア・ヘルツェゴビナの参加者を含め約70名の参加者があった。2006年ジャワ島中部地震で被災した世界遺産プランバナン寺院の耐震調査を発表したが、地震直後の政府間協力から始め、インドネシアと共同で現在も学術研究として継続し、途上国の支援も目的としている調査研究に対して、参加した専門委員の方々からエクセレントという評価をいただいた。また、同シンポジウムでは、イタリア・ラクイナ地震の緊急調査報告がイタリア人専門委員からあった。今回の地震被害の特徴として、鉄筋コンクリートの床スラブや屋根が歴史的組積造建築物の被害に影響を及ぼしていると指摘があった。

ボスニア紛争から約15年経過しようとしている。モスタルの市街には、いまだ、戦争で被災した建物がそのまま残っており、壁には砲弾の痕跡も多く見受けられた。また、行方不明者を探すポスターも張られている。1993年にはネヴェレ川を渡す石造橋 Stari Mostar (セルビア語で古い橋の意味) が破壊され、2003

年に再建されている。再び、世界遺産に登録され、街にも観光客が戻りつつある。市街を歩けば、人々の表情などには、戦争による暗さはみられない。ボスニア・ヘルツェゴビナは多様な文化と歴史遺産をもつ地域であり、国としても観光に力を入れようとしている。最近では、とくに日本人観光客が増えているという。

今回は、戦争および地震からの建築遺産および歴史的都市の復興状況を視察するために、この国際委員会に合わせて、モスタルのほか、世界遺産ドブロヴニク (クロアチア)、同コトル (モンテネグロ) を訪問した。モスタルからクルマで2時間の距離に、ドブロヴニクがある。1991年末に戦災を受けて危機遺産となった歴史地区は、1994年に再び世界遺産として登録され、現在では、海岸リゾートと相まってヨーロッパでも最も人気のある観光地となっている。去年は日本人も14万人訪問したという。しかし、この地域はヨーロッパにおける地震危険度の高いところであり、1667年と1979年には大地震が発生している。ドブロヴニクも1667年の地震で大被害を受けている。とくに、1979年の地震では、ドブロヴニクから南東約100kmの歴史都市コトルが大きな被害を受けた。1978年に世界遺産に登録された直後の地震で、リアス式海岸の美しい景観をもつ街並みは、ただちに危機遺産となり、その後、ユネスコの支援で復興している。当時、旧市街の再建にあたって、どのような耐震対策が行なわれたのか、近年の巨大地震によって被災した世界遺産建築および文化的景観の修復計画の立案の参考となろう。



世界遺産モスタル橋 (ボスニア・ヘルツェゴビナ)



ISCARSAH委員会 会議の様子

2009年8月岩面画国際学術委員会 活動報告

五十嵐ジャンヌ

日本イコモス国内委員会 岩面画委員会傘下にある日本先史岩面画研究会（代表：小川勝）は昨年度に引き続き、日本学術振興会科学研究費補助金を得て、岩面画遺跡の調査・研究、報告会を行なっている。

7月29日から31日にかけて、山形県酒田市沖北西に位置する飛鳥の館岩にて岩面刻画の測量・撮影などの調査を行なった。

8月22日から25日にかけては、北海道・余市にてフゴッペ洞窟岩面刻画、旭川市博物館にてフゴッペ洞窟出土の岩面刻画のある石片を調査した。8月23日は、北見枝幸「オホーツクミュージアムえさし」にて、北海道開拓記念館2009移動博物館・オホーツクミュージアムえさし開館10周年記念事業として『謎の岩面刻画 - フゴッペ洞窟 -』展が行なわれ、関連シンポジウム『謎のフゴッペ洞窟・岩面刻画を探る』に参加した。日本先史岩面画研究会のメンバー全員がそれぞれ発表者、コメンテーター、コーディネーターとして同シンポジウムを盛り上げた。第1部「フゴッペ洞窟研究のアプローチ」では、フゴッペ洞窟、鹿児島県徳

之島、韓国、中国、台湾、フランスの岩面画の報告を行なった。第2部の討論会ではコメンテーターによる発表者への質疑応答を契機に、岩面画に関する議論を交わした。第3部の座談会「フゴッペ洞窟の発見から発掘まで」では、遺跡発見者・大塚誠之助氏、発掘経験者・横田滋氏、発掘指導者の関係者・島田和武氏の回想談を中心に、岩面画発見の状況や昭和25年頃の遺跡発掘環境が詳細に語られた。

なお、本研究会は10月下旬にも、中国寧夏回族自治区銀川市に近い賀蘭山にて岩面刻画の調査を予定している。

最近のISC考古遺産管理委員会の うごき

小野 昭

考古遺産管理（Archaeological Heritage Management）委員会は実質5年以上にわたり機能不全に陥っていた。この間、正常化のために各国委員が努力しなかったわけではない。会長（オーストラリア）が事務局長と相談もせず次々と文書をだしたり、議論を経ずにHPを書き換えるなど、恣意的な引き回しによって混乱が助長された。昨年から今年にかけて周囲から改善策がだされ、今年の6月ようやく正常化の制度的保証が整ってきたので簡潔に報告する。

■会長・副会長選挙

3年ごとに改選の会長、副会長の選挙が行なわれた。今期は2009年～2011年までの任期である。2009年1月に立候補受付があり、自薦でアメリカ、オランダ、ハンガリーから合計3名が会長に立候補した。副会長は地域ごとに自薦他薦を含め5名の立候補があった。北米、南・東アジア、南アジア、南・東地中海、インドパシフィックである。地域割りで埋まっていない所はヨーロッパ、ラテンアメリカ、サブサハラ3地域の副会長である。南・東アジア地域は私が自薦で立候

補した。副会長は定員に満たないので全員が信任された。会長は途中でアメリカの D. Comer とオランダの W. Willems が Co-Presidency という事で会長席を二人で分担して担う方針を出し認められた。そのためハンガリーの Z. Visy と一騎打ちになり、登録されている Voting Member の E-mail による投票の結果 Comer/Willems が会長に選出された。Visy は空席であったヨーロッパの副会長となった。

■機構の整備と役割の明確化

会長、事務局長以外に Web、関係の管理、基準文書などの委員会、会員登録委員会、副会長の役割の明確化など、機構の整備とそれに関連する既存の役割の明確化、委員会内に新しい委員会（小委員会）を設置するなど、本年7月にまとめて提起された。

私は会委員登録委員会の委員も併任している。一連の選挙行事を通して、ICAHM では Expert Member の登録によって、国内委員会内にある国際学術委員会の Voting Member の役割が不要になるのではなく、3年に一度の選挙では地域の動向に副会長が責任をもつ関係上、各国の Voting Member による投票が必要であるとの認識を示したことになった。

ICAHM では2009年中に3回会合が開かれる。既に6月にはライデンで開かれ、10月にマルタ、11月にハノイで開催予定である。多様な機構改変にともなう原案がこれらの会議で最終的に決定される予定である。また、1990年に制定された ICAHM CHARTER (ICOMOS Charter for the Protection and Management of the Archaeological Heritage) の改訂作業も予定されている。

ISC 文化的景観国際委員会報告

杉尾伸太郎

主催国イタリアは前会長のザングリ氏他数名、イギリス、フランス、スイス、オーストリー、チェコ、スペイン、イラン、ポルトガル、ベルギー、ポーランド

から会長のモニカ・ルエンゴ、名誉会員のアニヨン・カルメン、日本(杉尾)の12カ国20名の参加であった。

今回はフランスの財政難による突然のキャンセルを受けて、イタリアの ISC がイコモス・イフラをルネ・ベシェールと共に創立して以来の会員であるイタリアのコモ湖に今は住んでいるピエール・ファスト・バガッティ・バルセティ氏の80歳の祝いを兼ねてミラノで開催する事に、こぎつけたものである。会議は12、14日の2日間で13日はコモ湖へのエクスカーションであった。今回の会議の内容は主に規程の改定に関する事である。エゲル・西安のプリンシプルを受けて、今年中にも改めなければ、前回のケベックでの会議の際に入会について、かなり厳しい結果を出したことがアメリカの反発を受けている。すなわち他の国も同様であるが6名のうち2名がこのISCにふさわしいとして、他のISCではアソシエートメンバーと呼んでいるコレスポンドリングメンバーに認められ他はキャリアの点で認められなかった。そこをアローズ会長に抗議があったので、当ISCでも、早急に規程から見直す必要に迫られている。方向としてはエゲル・西安プリンシプルに沿って改革する必要は認めており、次回の日本での会議で決議する予定となった。

またイフラとの関係もケベックでの頭越しのイコモスとの契約があり、当ISCの会員が納得するには至っていないが、方向としては協力する事を否定するものではない。

全体としてアメリカ主導型の強引なイフラと、伝統を重んじるヨーロッパ主導型の対立ともとれる。アジアは殆ど日本だけの出席となっているが、今後も今まで以上に双方の調整とアジア-オセアニア地区に日本の立場を考えたパフォーマンスが必要である。

尚、今回はこの8月31日から9月3日まで日本で開催されるが、参加者はイタリアを主体に増加しそうであり、40人近くになると予想される。

終わりに、エクスカーションの最後に訪れたコモ湖にあるバガッティ氏の別荘は深い谷の上に位置し、対岸の山の岸壁が美しく見渡せる広大な別荘で、イコモス・メンバーの経済的な立場が毎回思い知らされるの



である。



コモ湖を背にバガッティ氏（右から2人目）

**第4小委員会（世界遺産に関する小委員会）報告
「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」国際会議
報告と勉強会」議事概要**

稲葉信子、山内奈美子

勉強会主旨：現在日本の暫定リストに登録されている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」について、今年3月に長崎県の主催で、海外からはユッカ・ヨキレート博士及びデニス・ブンバル氏が招聘されて国際会議が開催されたところです。ヨキレート博士はイコモス世界遺産コーディネーターとして、またブンバル氏は元イコモス事務局長として、両氏ともイコモスにおける世界遺産の審査に深く関わってきた経験があり、その経験に基づく非常に有益な議論が行なわれました。まずはこの国際会議での議論の報告をさせていただいてイコモス会員の間で情報の共有をはかるとともに、世界遺産のOUVについての考え方について「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を素材に勉強会を行ないたく、これを日本イコモス第4小委員会の議題に取り上げさせていただくことにしました（前は富士山でした）。当日は長崎県をはじめ、長崎の各市町担当者も参加していただき、現在の調査状況や、遺産群の価値などについての活発な議論が交わされましたので、以下簡単ではありますが報告させていただきます。

日時、場所：8月11日 PM6:30～8:45 岩波書店一ツ橋ビル地下1階

出席者：（イコモス及び関係者）稲葉、岡田、前野、前田、山田、矢野、山内、柳沢、荒俣、秋枝ユミイベル、内藤央真、スーザン・モーリ

（長崎県）深堀、嶋田、貝淵（長崎市）長瀬、中村、西田

主な協議内容：

1. ベトナムの教会建築についての概要説明（山田先生）、ベトナムと日本との布教の違いについて
2. OUVの切り口について・・・長崎がもつ「他にはない価値」とは何なのか。
3. 3月の国際会議における協議内容についての確認
4. 「長崎の教会群」の価値について・・・「共存」「信仰」「アジアの東端」「かくれ、潜伏」はテーマになりうるのか、それを証明するための調査、比較とは
5. 宗教の扱いとVIの適合性、「平和」のメッセージについて

主な発言：

■ ベトナムには1200以上の教会が残っているし、様式的にもかなりまとまっている。ハノイのファージェム地区の教会群だけでもIVの建築様式で世界遺産登録の可能性があるくらい。ただしベトナムには「弾圧」はあっても「かくれ」はない。またベトナムにはイエズス会の時代から布教の歴史があり、パリ・ミッション創立者がベトナムに布教しているなど、東南アジア宣教の中心でもあった。ベトナムも含めて東南アジアの多くがヨーロッパの植民化のなかで布教されていった経緯があるが、日本は違う。このことも、日本が「他と違う」ことのひとつにはなるし、「弾圧」を乗り越えて復活し、コミュニティのなかで教会を建設していったことを説明してはどうか。

■ 幕末だけでなく、400年を証明する「もの」が非常に少ないのが問題である。

■ 優等生の論文ではないのだから、世界の中で長崎が何で競争できるのか、もっと壮大で強い切り口が必要ではないか。「かくれ」なら世界的にはカッパドキ

アのほうが強いイメージがある。

■ デイヌは会議で教会群と近代化を結びつけてはどうか、という発言をしていたが、彼は九州山口の近代化遺産群にも関わっており、19世紀のイギリスの世界制覇のイメージがあるのだろう。長崎は近代化とは少し違う気がする。

■ 長崎で信仰を引き継いだ人々は支配者ではなく、権威とは無縁の人々。ただ引き継ぐために250年信仰を守ってきた人々である。そして限られた場所に他の宗教と混在しているという多様性を持っている。これらはキリスト教布教におけるひとつの信仰のありかたを示すものでは。

■ マリア観音のような宗教の変容をどういう価値観で表すのか。むしろ文化人類学の範疇では。

■ 日本という多神教の国で、一神教をも受け入れる土台があることや、その対立構造について着目するとよいのでは。

■ 16世紀の西洋と東洋のダイレクトな交流の結果、潜伏キリシタンが生まれ、復活があり、当初模倣であった教会がそれまでの文化と融合していくかたちで、序々に粗末な教会から煉瓦造の教会堂へ建て替わっていくことこそ、きわめて日本的な文化的伝統ではないか。

■ ここには宗教的な「キリスト教のアジアにおける変容の歴史」と文化人類学的な「日本におけるある宗教の形 (ex. 多神教の中で共存する一神教)」という2つの側面がある。

■ ヨーロッパでは宗教戦争がおこることが多いが、長崎は共存という特徴があるのでは。

■ 宗教の「共存」も世界的にはいくらかもあるので、共存のテーマでは弱い。

■ ヨーロッパの東端、ということも重要なのではないか。ヨーロッパの精神文化である Catholic がアジアの末端でどう変容したか、を整理できるとよいが、短時間でまとめるのは難しい。

■ 当初は「東端」という価値で行けると考えていたが、むしろ「キリスト教の東の到達点に現れた、ある特異なキリスト教の形」なのかもしれない。

■ 今年の世界遺産委員会に参加して感じたのは、長

崎の価値を1分で言うと何か、を会議の間にでも言えるかどうかというのが重要ということ、そして比較研究が重要ということだ。

■ 何を対象として比較研究するかが見えないと作業ができないと思っている。

■ 教会のロケーションやセッティングも重要な要素では。デイヌも海との関係が重要だと言っていた。

■ なぜ幕末から明治にかけて長崎にだけ信者が増えたのか、そもそもなぜ長崎にキリスト教が根付いたのかをもう一度考えてみるべき。

■ 潜伏が原因ということは言えるが、潜伏の宗教史はこれまでの世界遺産にはない。宗教史をVIで表現しようとするのは問題がある。

■ 「平和」のテーマは世界の中では非常に訴えやすいテーマだと思うが。

■ 「平和」は組み立てにくい。長崎でそれを出すと、根底から崩れてしまう。ユッカが以前、世界遺産の分析レポートを出しているが、そのなかで「登録に至らないものは出す範囲が広すぎる、例えば平和」などと書いている。また信仰の強さが必ずしもいい結果になるとは限らない。

会議の結論：

・次回以降、このような場をまた設けて検討していく。(次回テーマは未定)

・VIに宗教史をあてはめるのは難しい。もしできるとしたら何がありうるのか調べてみる必要がある。

宗教や信仰についても、世界遺産でどのように扱っているかを再度確認する。(バハイ教の聖地など)

・「信仰」や「300年の潜伏」をテーマとした場合でも、どれだけ強いメッセージが作れるのか、「1分で説明できる長崎の価値」とは何なのか、を改めて検討すべき。

・「世界史上の重要性」だけでは世界遺産にはならない、ということは認識しなくてはならない。

・現在調査している県内各地の資料について、(かくれの分布図など) 今後本当に物証となりうるのか、あるいはそのための根拠資料となりうるのか、(プライバシーの問題も含めて) 検討すべき。



- ・マリア観音のような宗教の変容のかたちを価値とするならば、文化人類学など別の視点も必要だろう。
- ・キリスト教布教の「東端」の意味をもう一度考えるべき。
- ・「平和」のテーマを今、長崎で世界遺産の中心に据えるというのは難しいだろう。
- ・今後の作業として、比較研究が重要。

第6小委員会 (鞆の浦の問題に関する小委員会) 報告

益田兼房

歴史的な選挙が終わりました。選挙前に鞆の浦に関する要望書を、イコモス委員長名で金子国土交通大臣に提出して数度面会を求めましたが、この選挙の時期に結局対応をいただけなかったは、やむを得ないのかも知れません。

しかし、毛利委員の御報告によれば、選挙後の国交省港湾局の反応を見ると、事態が切迫している状況に変わりありません。地元状況として、埋立推進派の宮沢氏が国会議員でなくなりましたが、当選した民主党議員が推進派でないのかどうか、国交省も判断がつかかっているようです。福山市がまちづくり計画の基本に埋立架橋を据えている以上、危機的な状況に変わりありません。当面政治的には、国土交通大臣に誰がなるのが注目され、新任の大臣への政策決定に影響を与えるような提案や要望が必要となりましょう。

また提案や要望の内容に大きな影響があるのは、10月1日の広島地裁の判決です。その内容をいくつか想定して、マスコミ向けの対応を準備する必要がありますでしょう。

このような社会状況に、イコモスとしての対応ができるよう、小委員会の開催を4日、11日にご準備いただいておりますが、皆様の知恵の結集をお願い申し上げます。

なお、この非常時にまことに申し訳ありませんが、益田は現在ユネスコチェア国際研修を主催中で、9月5日からは海外出張となり10月1日早朝に関西空港に帰国します。広島地裁の判決時刻には間に合いませんが、記者会見の時間には間に合うかもという状況です。恐縮ですが、イコモス事務局の矢野事務局長のご協力、また最近の状況をよく把握されている毛利様のご意見に基づき、小委員会に副査の設置をいただき、不在中の業務処理をしていただけますよう、委員長にお願いを申し上げます。

お知らせ

● ICOMOS International Wood Committee (IWC・木の委員会) 2009年次会合のお知らせ

渡邊保弘

第17回国際木の委員会年次会合が12月2日から5日にかけて、Poland西部の古都Wroclaw(ヴロツワフ)で開催される事になりました。正式な日程はまだ報告がありませんが、REMO (REPAIR, CONSERVATION AND STRENGTHENING OF TRADITIONALLY ERECTED BUILDINGS AND HISTORIC BUILDINGS: この組織については詳しい事がわかりませんが、Polandの修復専門家の集まりかもしれません)とICOMOS国際学術委員会ISCARSH (The International Scientific Committee on the Analysis and Restoration of Structures of Architectural Heritage)との合同会議(12月2日から4日開催)が予定されている様です。

IWCの今年の発表テーマは“REGIONAL TIMBER STRUCTURES AND ARCHITECTURES”です。梗概の提出期限は9月末日です。参加・発表を希望される方は渡邊までご連絡ください。

木の委員会の会長であるイタリアのタンポーネ氏は、今後ISCARSHと幅広く親交を深め共同作業を行なう

ことを計画している様です。氏は構造の専門家近年の木の委員会は建物保存の構造的問題を多く取り上げるようになってきました。今後もますますこの傾向は強くなるものと思われます。この他世界遺産リストに登録されている木造建造物の見学もあるとの事です。

●世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録5周年記念
世界遺産国際交流シンポジウム

「世界平和の構築を考える世界遺産国際交流シンポジウム2009」の開催

杉尾邦江

JAPAN ICOMOS/INFORMATION 7-10号でご案内いたしました「世界平和の構築を考える世界遺産国際交流シンポジウム」の開催が近づいて参りました。日本イコモス国内委員会、イコモス国際専門委員会、カルチュラルルート委員会(CIIC)、三重県の3者共同主催で実施されます。この内、日本イコモス国内委員会及びCIIC2者の会議実施経費負担金は日本イコモス国内委員会が申請者となり、国際交流基金知的交流会議助成金、財団法人文化財保護・芸術研究助成金及び財団法人民族芸術交流財団からの寄付金等を会議資金として実施されます。これらの助成金等の決定を受けて、いよいよ会議への準備に拍車がかかります。海外からのスピーカーの招聘も始まりました。イコモスCIICのメンバーの他、イコモス会長Gustavo Araoz氏、副会長Francisco Lopez氏、CIIC会長Maria Rosa氏、中国からLu Zhou氏をはじめ、イコモスの幹部などがスピーカーとして世界から参集します。日本側は日本イコモス国内委員会のメンバーが主たるスピーカーとなります。シンポジウムのテーマ「世界平和の構築に寄与する世界遺産」について理念、価値について考え、更に事例による検証と意見交換を行なうもので、結果としてこれからの世界文化遺産の新たな理念の構築、さらにOUVに対する概念の拡大について考察いたします。また「世界遺産による平和宣言」も予定されています。これに伴い紛争を抱える諸国か

らのスピーカーも多く招聘されています。

本シンポジウムは尊い助成金を頂いて実施されることから、ぜひとも成功させなければなりません。しかし、国際会議として多くの外国人を招聘するところから会議資金は十分とは言えず、会議の運営、企画を委託する事が出来ません。現状では、日本イコモス国内委員会事務局や筆者等が孤軍奮闘で頑張っております。会員各位の御協力、ご教示、御支援を頂きませんと本シンポジウムを運営する事は困難です。会員各位に於かれましては下記についてご助力いただきたく、関心のある方は事務局又は杉尾までご連絡いただきたくと存じます。

記

- 1 スピーカーとして参加を希望する
- 2 平和宣言草稿作成に参加希望
- 3 会議事務局業務に参加希望(多少の謝金、会議期間中の滞在費、旅費は支給可)
- 4 その他 ご意見、ご支援頂ける事がありましたらご連絡お願いいたします。
- 5 本シンポジウムには会員の多数の参加を是非御願いたします、イコモス会員は会議参加費無料また、三重県知事主催のレセプション参加も無料です。

【熊野古道国際交流シンポジウム】

「尾鷲2009」プログラム

日時：2009年10月31日14:00～

場所：三重県立熊野古道センター

プログラム：

14:00～14:10 主催者挨拶 野呂昭彦(三重県知事)

14:10～14:20 来賓挨拶 Gustavo Araoz(イコモス会長)

14:20～15:00 基調講演 Maria Rosa(イコモスCIIC会長)

田中利典(金峯山修験本宗宗務総長)

15:00～15:10 ビデオ上映

15:30～16:50 分科会



(1) 地域の活性化セッション

- ・コーディネーター 宗田好史(京都府立大学准教授)
- ・パネリスト5名(予定)

(2) 将来への継承セッション

- ・コーディネーター 稲葉信子(筑波大学教授)
- ・パネリスト5名(予定)

(3) 保存管理セッション

- ・コーディネーター 杉尾邦江(ブレック研究所)
- ・パネリスト5名(予定)

17:00～17:30 分科会報告

17:30～17:40 ゲストスピーチ

17:40～17:50 閉会挨拶 花尻薫(熊野古道協働会議代表世話人)

18:00～20:00 国際交流レセプション

問い合わせ先：三重県東紀州対策室(電話 059-224-2192)

【世界遺産国際交流シンポジウム伊勢2009】

之からの世界遺産の意義を問う

「世界平和の構築に寄与する世界遺産」について考える

シリアルノミネーション、カルチュラルルート、文化的景観等の遺産の多くは国境を超えて存在することから特に世界平和の構築に寄与すると考えられます。本シンポジウムにはイコモス会長、CIIC会長初め世界からイコモスの専門家が多数参集して討議交流を図ります。会議シンポジウムの成果として参加者全員によって「世界遺産平和宣言」を伊勢市から世界に向けて宣言を行ないます。

記

日時：平成21年11月1日(日) 9:00～19:00(開場 8:30)

場所：賓日館(伊勢市二見町)

〒519-0609 三重県伊勢市二見町茶屋566-2

TEL/FAX 0596-2003

参加費：無料(但し、資料代等2000円)

定員：300名様(要申し込み)

主催：イコモス専門委員会カルチュラルルート委員、日本イコモス国内委員会、三重県

後援：文化庁、外務省、伊勢市、和歌山県、奈良県(独立行政法人国際交流基金、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 助成事業)

お申込み・問い合わせ先：

三重県政策部東紀州対策局東紀州対策室

CIIC 東京連絡先 ブレック研究所(杉尾、大野)

TEL 03-5226-1101 Fax 03-5226-1112

email: ciic-japan@prec.co.jp

プログラム：

9:00～ オープニングリマーク 三重県知事他、

9:30～ 基調講演 イコモス会長 「之からの世界遺産の役割と概念」

CIIC会長 「カルチュラルルート、シリアルノミネーション等世界平和の構築の構築に寄与する世界遺産の意義」

10:00～12:00 第1セッション

テーマ 「New Concepts of World Heritage and Potential for Building the World Peace」

7名のスピーカーによる講演

12:00～13:00 昼食

13:00～16:30 第2セッション

テーマ 「上記テーマの事例による検証」

12名のスピーカーによる事例報告

16:30～17:40 総括(交流セッション)

18:00～18:40 平和宣言及び調印

18:40～ プレス発表

19:00～ レセプション 一般参加可(有料) イコモス会員は無料

事務局日誌

(2009年6月6日～2009年9月1日)



- 6/12 財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団より、世界平和の構築を目指す世界遺産文化の道 国際交流シンポジウムへの助成金170万円を受領。
- 6/13 第11小委員会（歴史的都市のマスタープラン）第1回定例会議 開催（於 岩波書店一ツ橋ビル 地下1F 会議室）。
- 2009年次第2回拡大理事会 開催（於 岩波書店一ツ橋ビル 地下1F 会議室）。
- 6/16 平泉 世界遺産登録に向けた第6回推薦書作成委員会（中央合同庁舎第7号館）ヘイコモス国内委員会がオブザーバーとして出席。
- 6/26 イコモス国内委員会事務所レイアウト変更。
- 7/8 【JAPAN ICOMOS INFORMATION】第7期10号発行、会員に順次発送。
- 7/27 富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議 会長 山梨県知事 横内正明氏へ「富士山世界文化遺産国際フォーラム」の後援依頼に対して許可を返送。
- 7/31-8/1 神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録会議主催 推薦書作成委員会ヘイコモス国内委員会オブザーバーとして出席。
- 8/11 日本イコモス第5小委員会（世界遺産に関する小委員会）「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」世界遺産登録に向けての検討会議」開催。
- 8/18 平泉 世界遺産登録に向けた第7回推薦書作成委員会ヘイコモス国内委員会オブザーバーとして出席。
- 8/27 世界遺産フォーラム実行委員会 会長 卜部吉博氏（島根県教育庁文化財課長）へ「第1回世界遺産フォーラム」の後援依頼に対して許可を返送。
- 8/30 立命館大学・日本イコモス国内委員会 国際専門家会議「地震帯における世界文化遺産の持続可能な保護」（於大学コンソシアム京都）。イコモス本部からは Gustavo Araoz 会長、日本イコモスからは益田兼房理事が演者として参加、前野まさる委員長がオブザーバーとして出席。
- 8/25 日本イコモス国内委員会法人化に関する検討会議開催。
- 8/31-9/1 イコモスインフラ文化的景観委員会年次総会開催（於 国際文化会館）。
- 9/1 Gustavo Araoz 氏講演会 “Authenticity of Urban Historic Landscape” 開催（於 岩波書店一ツ橋ビル 地下1F 会議室）。来日歓迎の夕食会を国内委員会理事中心として神楽坂で開催（8名参加）。

日本イコモス国内委員会 維持会員（代表者）

株式会社 尾田組（尾田芳信）
株式会社 都市環境研究所（矢嶋啓自）
株式会社 プレック研究所（杉尾伸太郎）
株式会社 トリアド工房（伊藤民郎）
西武建設株式会社（大澤茂治）
北野建設株式会社（北野貴裕）
株式会社 小林石材工業（小林美和）
テック大洋興業株式会社（鳥潟浩司）

株式会社 鴻池組（玉井啓悦）
株式会社 乃村工藝社（乃村義博）
株式会社 文化財保存計画協会（矢野和之）
「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会（菅谷 昭）
株式会社 京都科学（片山 保）
「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」（仁科恵敏）
株式会社 丹青社（渡辺 亮）

（敬称略・順不同）

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業・団体のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Secretary General	事務局長	矢野 和之	Kazuyuki YANO
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		黒田 乃生	Nobu KURODA
		清水 真一	Shinichi SHIMIZU
		杉尾 邦江	Kunie SUGIO
		鈴木 博之	Hiroyuki SUZUKI
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		田辺 征夫	Yukio TANABE
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮城 俊作	Shunsaku MIYAGI
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		前田 耕作	Kosaku MAEDA
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		三宅 理一	Riichi MIYAKE
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
		崎谷 康文	Yasufumi SAKITANI
		窪寺 茂	Shigeru KUBODERA

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
ISC on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
Analysis and Restoration	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage Training	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Cultural Landscapes	稲葉 信子	Nobuko INABA
	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
Vernacular Architecture	本中 眞	Makoto MOTONAKA
	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Recording and Documentation	高瀬 裕	Yutaka TAKASE
	山田 修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
	大野 涉	Wataru OHNO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI
Interpretation and Presentation	門林 理恵子	Rieko KADOBAYASHI
Theory of Conservation	秋枝 ユミ イザベル	Yumi Isabelle AKIEDA



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.11 17 SEPTEMBER 2009

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信、館崎麻衣子

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>

JAPAN-ICOMOS National Committee Secretariat

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>